

先生たちから「子どもの生活指導が大変」という話を聞きました。朝食を食べてきていない子どもや、夜遅くまで家族で出掛け、十分に睡眠がとれていない子ども……。どちらの場合にも、学校に来たときに授業や学級活動に集中できる状態になっていないことが多いそうです。一人一人の子どもには大きく伸びる可能性があります。ですが、空腹や睡眠不足の状態では、学力をつけるどころではないのではないのでしょうか。

どの子にも基礎的な生活習慣を身につけてほしいものですが、実は家庭にも事情があると言われています。仕事の関係で、夕食が遅くなるとか、子どもと触れ合いたいと、親が仕事から帰ってから家族みんなで食事や買い物に出掛け、就寝が遅い時間となることもあるようです。最近では、夜遅くまで開いているスーパーやドラッグストア、24時間営業のコンビニや飲食店など、営業時間の長いお店が増えてきました。仕事帰りの買い物や用を足すには便利ですが、そうしたお店で働いている従業員や配達業などの方々にも子どもがいるのではないかと思われれます。

「子どもの日課と長時間営業」

ところで、最近、昭和の暮らしを描いたテレビドラマや映画が人気です。暮らしは豊かではありませんが、ほっとする気持ちになる人も多いのではないのでしょうか。夕焼けを見ながら家路につく、そんなシーンが心に残っています。「朝、仕事を始め、夕方には仕事を終え、家に帰る」そういう暮らしをうらやましく思いました。

今すぐにみんなが午前9時から午後5時までの仕事に戻ることはできないでしょう。けれど、長時間営業していれば光熱費など費用も掛かります。働く人の健康も損なわれがちです。

「人間らしい暮らしは、物の豊かさだけでは、はかれないのでは」と考える今日この頃です。皆さんは、いかが思われるでしょうか。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで